



来年の秋に開館予定の金沢21世紀美術館を皆さんもご存知だと思います。場所は金沢大学付属学校跡地で、金沢の中心市街地であり、向い側の県庁跡地を含め、大きく姿容をこげつつある場所です。

説明がいらすには「と見えて美しい」、「安らぐ」というものには価値基準がない芸術素人の私には、21世紀美術館がメインにすえる現代美術は、正直言って価値がわかりにくい部分のある世界でした。今回機会

ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

金沢21世紀美術館

があつて「現代美術のオリ
ンピック」と称されるベネ
チア・ビエンナーレやビル
バオのグッゲンハイム美術
館などを訪問してきまし
た。それも金沢21世紀美術
館建設事務局学芸課長で、
今回のビエンナーレ日本館
の総合コミッシヨナーの長

最初のころは現代美術にあ
まり詳しくないためか、展
示されているものに作品と
して理解できなかったり、
「？」が目の前に並ぶもの、
拒絶反応すら示すグロテス
クな作品に、価値がわから
ないものもありました。

どうなのかを自分の解釈レ
ベルで捕らえていくと現代
美術の面白さがわかってき
ました。

食わず嫌いではなく、激
変するこれからの社会を生
きていくには、創造性や感
受性の幅を広げる必要があ
ります。いろんな分野の、

んでいて、街の活性化の見
本のような建物です。古く
からの造船の小都市ビルバ
オの持つ街のイメージとは
かなり離れた「金属製の花」
をイメージしたチタン仕上
げの巨大な未来派彫刻のよ
うな外観にもかかわらず、
昔からある橋や川などをす
ましく利用し、古くからある
ものと感動すらおぼえるほ
どの一体感を醸し出してい
ます。古い街並みと兼六園
や金沢城をもつ金沢市にと
って、まさに新旧融和の先
生のようでした。

谷川さんの現地同行解説付
き。他にも芸術や街づくり、
建築の専門家の方々も一緒
に行かれたので、現代美術
に関する価値観が大きく変
化しました。

展示場には美しいもの
や、なるほど感じる作品
もたくさんありました。が、

るうちに、作品のもつてい
るメッセージが重要なのだ
ということがわかると、不
思議と素人なりに作品に興
味がわき、作品と対峙して
いる自分があるのです。哲
学的なメッセージも作品の
どこに生かされているの
か、そのメッセージ自体が

それも、「いいもの」に触れ
ることにこの21世紀美術館
の存在意義の一片があるの
ではないでしょうか。

街の活性化に対しても考
えさせられたのは、ビルバオ
のグッゲンハイム美術館。
二十六万人足らずの街に年
間八十万人の観客を呼び込

体感したことのないあふ
れるばかりの刺激や創造性
を、金沢21世紀美術館が私
たちに提供してくれるのを
心待ちに、来年秋の開館を
待ちたいと思います。